

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所のぞみの家		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 13日		～ 令和 7年 1月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 9日		～ 令和 6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【活動プログラムの充実】 利用児童の特性に合わせて活動プログラムを計画的に作成し、集団活動と個別活動を組み合わせ、創意工夫で多様な活動、寄り添った支援を行っている。	・月単位などで事前に活動プログラムを作成 ・ミーティングを実施し、活動内容のアイデアを抽出 ・利用児童に対する支援の評価を職員と共有しながら、日々軌道修正を行う。	・ご家庭や他事業所での取り組みなども、ご家族とのコミュニケーション中で情報共有し、自事業所での活動プログラムに取り入れる。 ・インターネット等で活動プログラムに関する情報収集を行う。
2	【コミュニケーションの充実】 お子様の様子は日々情報共有ツールのケアコラボを使用して、ご家族へお知らせしている。また、送迎時や定期的な面談等でご本人やご家族の思いを確認しながら、日々の支援に反映させて取り組んでいる。	・ケアコラボでお子様の様子を画像や動画などでご家族へお知らせしている。また、ご家庭や他事業所での様子をご家族からお知らせ頂くこともあり、タイムリーにお子様の現状把握をご家族と一緒にしている。 ・ご家族との会話を大切にコミュニケーションを行い、課題等の抽出につながるよう努めている。	・引き続きケアコラボで、支援の効果がより分かりやすく伝わるように画像や動画などを活用して情報共有を行っている。また、ご家族と対面で双方向のコミュニケーションの場を大切にし、ご本人やご家族のサポートを行う。
3	【活発な意見が飛び交う明るく活発な活動環境】 日常の課題やこれからの取り組みなど、日々ミーティングを行いながら活動を行っている。また、活動時は皆で協力し、職員も一緒になってお子様と楽しみ、喜怒哀楽あふれる楽しい環境で過ごすことができる。	・毎日振り返りのミーティングを行い、今後の取り組みについて軌道修正を行う。 ・利用児童のできたことなどを情報共有し、職員みんなで喜びあう環境を作っている。	・繰り返しミーティングを行い、日々の目標や今後の取り組みを明確にしていく。 ・自己満足にならないよう、ご本人視点、第三者の視点を持ちながら環境設定を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【環境整備】 環境の狭さや収納スペースが不足していることで、動線が非効率的になったり、生活環境にゆとりがなくなる。	・部屋数などの構造的なところについては、すぐに改善できないため、支援物品が想定していたよりも多くなったことが要因。また、それに伴って収納棚などのスペースの皆をしを行ってこなかった。	・収納棚を設置することに加え、支援環境や職員のワークスペースのレイアウトについて見直しを行う。
2			
3			